

鳴瀬川水系河川整備学識者懇談会

第10回学識者懇談会で頂いた主な意見への対応方針

【大臣管理区間】

国土交通省 東北地方整備局

No	意見	対応方針
1	<p>●<u>上流域における環境保全について</u></p> <p>○ダムの下流域の環境保全について記載はあるが、上流域の環境保全については記載が無いのではないかと。水質や環境はダム上流にある山の保水力を向上することが重要であり、上下流あわせて整備することで、下流の環境を保つことはできないのではないかと。</p>	<p>河川の整備の実施に関する事項に、上流域との連携について、本文に追加しました。</p> <p>また、ダム調査・建設の環境影響評価の実施にあたっては、ダム完成後における環境への影響を評価し、環境の保全に努めていきます。</p>

○本文への追記

5. 河川整備の実施に関する事項

5.1.3河川環境の整備と保全に関する事項

5. 河川整備の実施に関する事項

5.1.3河川環境の整備と保全に関する事項

(6)河川環境の保全に向けた川やダムを基軸とした取り組み

鳴瀬川上流域は、ブナ林など原生的な自然林が分布する船形連峰に位置し、豊かな自然環境に恵まれています。また、中流域は、山地から平地に移行する、自然と田園地帯が相まった変化にとんだ環境、下流域は平地が広がり町並みが連担する環境を形成しています。

これら上流域をはじめとする流域の自然環境は、河川環境と密接に関係しています。このため、流域全体の豊かな自然環境と良好な河川環境の保全に向け、沿川地域の歴史や文化を育み、人々の生活を支えている川やダムと地域住民との良好な関係を構築することを目指し、川やダムを軸とした地域住民や流域自治体、関係機関の参加・連携による取り組みを推進します。

5. 河川の整備の実施に関する事項 ～河川工事の目的、種類及び施工の場所並びに当該河川工事の実施により設置される河川管理施設等の機能の概要～

(5) 健全な流砂系の構築に向けた取り組み

河川の望ましい姿として、山から海まで、土砂の量と質とのバランスがとれた安全で自然豊かな親しめる河川や海岸を実現させる必要があります。

このため、山地から河口・海岸の漂砂域までの土砂が移動する運動領域を「流砂系」という概念で捉え、流砂系内の土砂移動の実態把握と土砂移動予測等、流砂系を健全な状態へ回復・維持するための調査・研究を推進します。

(6) 河川環境の保全に向けた川やダムを基軸とした取り組み

鳴瀬川上流域は、ブナ林など原生的な自然林が分布する船形連峰に位置し、豊かな自然環境に恵まれています。また、中流域は、山地から平地に移行する、自然と田園地帯が相まった変化にとんだ環境、下流域は平地が広がり町並みが連担する環境を形成しています。

これら上流域をはじめとする流域の自然環境は、河川環境と密接に関係しています。このため、流域全体の豊かな自然環境と良好な河川環境の保全に向け、沿川地域の歴史や文化を育み、人々の生活を支えている川やダムと地域住民との良好な関係を構築することを目指し、川やダムを軸とした地域住民や流域自治体、関係機関の参加・連携による取り組みを推進します。



写真 5-6 H25 漆沢ダム森と湖に親しむ旬間（出典：宮城県ホームページ）